

平成31年度 学評価校報告書(実施結果)

	視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月31日実施)	総合評価(4月15日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	表現力・思考力等の向上を目指した授業展開の研究や組織的な授業改善に取り組む。	生徒の実態を把握する為、生徒による授業評価やアンケート等を適宜実施する。 一人ひとりの生徒が授業に参加できる場面を作る。	生徒による授業評価の全項目における「良く当てはまる」の平均値が50%を超えたか。 「説明の仕方がいいいで、分かりやすい授業である」の評価の「良く当てはまる・当てはまる」の合計が60%を超えたか。	当該評価の全平均値は32%程度で目標の達成はできなかった。 質問項目の変更で比較はできないが、全項目で当該評価の合計は70%を越えている。	「当てはまる」の全平均値が45%あり、この評価が「良く当てはまる」となるよう授業改善に取り組む。 「身に付いた、できた」と実感がわくよう、継続して取り組む。	生徒による授業評価はよい取り組みである。3年次の評価が良いのは自覚があるからと考えられ、1・2年次生徒の意識向上を期待する。表現力・思考力の指導を継続することが大切である。	授業評価の結果をもとに生徒の状況に則した授業改善に全職員で取り組んだ。 生徒が関心を持ち、身に付いたと実感がわくような授業に全職員で取り組んだが、全ての生徒が自主的に授業に取り組むまでには至っていない。	引き続き、生徒による授業評価を指針として、生徒の意見を参考に、教科指導や授業改善に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置き、生徒が自ら考え、表現する活動を取り入れた授業となるよう努める。
2	生徒指導・支援	①基本的生活習慣の確立。 ②生徒の抱える問題解決に継続的に取り組む。 ③生徒一人ひとりが学校の構成員としての自覚を持つようにする。	①挨拶を奨励し、コミュニケーションの力を養うとともに時間の大切さを伝える。 ②アンケートや講演会などを実施し、生徒、保護者の理解、協力を求める。 ③生徒会行事では実行委員が中心となって企画、運営できるようにする。	①遅刻の数が減少したか、全職員で取り組むことができたか。 ②迅速かつ丁寧な対応ができたか。現状をふまえたアンケートや講演会を実施できたか。 ③体育祭で6割、文化祭で9割を超える生徒が「良かった」と回答したか。	①遅刻者は年々減少している。保健室の利用も目的外使用の生徒が減少した。 ②新型コロナウイルス対策のため講演会は予定通りには実施できなかった。生徒、保護者への迅速な対応により問題行動も減少した。保護者との連携をこまめに行うことで、協力して学校を運営することができた。 ③体育祭は7割、文化祭で9割を超える生徒が「良かった」と回答している。	①全職員の共通理解を促進し、校内巡回等の協体制をより一層強化する。 ②講演会については、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業が落ち着き解除されれば、効果的に実施できる。 ③生徒会本部と実行委員が主体となって企画・運営できるようにする。	①遅刻・早退の減少は、教員の努力によるものである。 ①交通安全指導にさらに取り組むことが大切である。 ②3月の講演会中止はやむをえない。 ③人間性を豊かにはぐくむ指導支援を今後も継続することが重要である。	①遅刻者等の減少は、全職員による粘り強い指導や校内巡回等で実現した。 ②生徒への迅速な対応や保護者との連携により問題行動を減らすことができた。 ③体育祭では79%・文化祭では94%の生徒が「良かった」と回答し、生徒中心の企画行事を通して、自らが学校の構成員であることを自覚した。	①校内巡回や校門指導のあり方を検討し、全職員の共通理解のもと、さらに効果的な生徒指導・支援体制の構築を図る。 ②実施できなかった各種講演会の内容について、今後機会をとらえて生徒に伝える工夫をしたい。 ③生徒総会・選挙などの生徒会行事においても、学校の構成員である自覚を持たせる。
3	進路指導・支援	①自ら考え、進路を選択できるよう支援する。 ②社会から求められる人物像について考えることができるよう支援を行う。	①進路ガイダンスの充実を図るとともに、専門教科の授業を通して職業観、勤労観の育成を図る。 ②卒業生や学校外の専門家の講演を通し、政治参加や社会参加の意識向上を図る。	①卒業年次における進路決定率が95%に達したか。そのほかの年次においては、進路希望が具体化した生徒が90%に達したか。 ②講演会の実施回数が8回に達したか。振り返り時のアンケートや感想文の内容で有意義であったと答えた率が70%に達したか。	①卒業年次の進路決定率は99%に達した。また、2年次の進路希望が具現化した生徒は94%に達し、1年次は2年次に続くよう指導している。 ②講演会等を8回計画したが、年度末に6回の計画に変更し、6回実施することができた。	①自己の将来設計に取り組めない生徒の進路決定が遅れる。高校入学後の早期からキャリア教育を推進し、職業観の醸成や進路の選択肢を拡げるようにさらに工夫する。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会の実施計画を一部見直した。	①進路決定率が目標より高いのは、本人のみならず教員の指導・支援のおかげである。 ②生徒の興味、関心、能力、適性が多様化している中で、これらに対応する指導・支援を行うことが重要である。	①進路決定に向けて、生徒への意識付けが効果的に行われた。今後も継続していく必要がある。 ②講演会等を有効に利用することができた。	①ガイダンスの内容を、生徒の実態に合わせて変えていく。専門科目との連携強化。 ②引き続き、開成町や青色申告会の協力を仰ぐ。生徒の就職先企業の企業への協力を依頼する。
4	地域等との協働	①地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを目指し、タイムリーに情報発信をおこなう ②開成町との連携を充実させるとともに、新たな連携先・連携内容を研究することで本校の教育内容の充実を図る。	①ホームページや学校紹介パンフレットの充実を図り迅速に情報発信する。 ②本校の教育課程に合致させた開成町と連携した事業を継続・発展を図る。	①迅速かつ相手が求める情報発信ができたか。 ②開成町との連携を継続・発展させることができたか。	①学校HPとTwitterの更新回数は35回と162回で、随時発信できた。「学校紹介ちらし」を作成し、学科の特性や進路をわかりやすく示した。 ②収穫体験、野菜栽培体験、果樹食比べなどの連携事業、かながわブランド「開成弥一芋」を教材にした地域との交流を実施できた。	①今後も継続して情報発信していく。情報内容は見やすく、伝わりやすい構成を心掛ける。 ②連携事業の実施時期について検討が必要である。近年の天候や気象条件の影響を考慮する。	①校内評価を継続して実施することが大切である。 ②幼・小・中との連携活動は素晴らしい。大いにアピールすべきである。開成駅前の花壇(花)は、開成町民だけでなく地域に貢献している。開成弥一芋を教材にした授業で、弥一芋研究会と開成町を講師として交流を図ることができ、よかった。	①中学生やその保護者に向けて学校の特色を中心とした情報発信ができた。 ②農業教科、農業クラブ各年次の活動(弥一芋、野菜栽培、草花栽培)を通して、地域との連携に前年度より多くの生徒がかかわることができた。	①より分かりやすく伝えられるような工夫を考えた地域に向けた情報発信も心掛けていく。 ②農業科3科、生活科の特色を生かした地域連携(開成町、JA西湘)を行い、地域、中学生に魅力を発信していく。
5	学校管理 学校運営	安心・安全な学校生活のための環境を整える。	防災計画を見直す。 避難訓練、DIGの充実を図る。 PTAと連携した校内および学校周辺の美化活動を推進する。	防災マニュアルの改訂ができたか。 防災訓練、DIGの実施により防災意識を高めることができたか。 PTAと連携した美化活動が推進できたか。	防災マニュアルの内容を精選し、頁数を減らすとともに見易くした。 DIGにより近隣の特徴を意識付けできた。 地域貢献活動等で生徒とPTAが共同で実施できた。	今後も新しい情報を参考に見直していく。 DIGの内容を参加生徒以外にも生徒会活動やPTA広報誌などで伝えていく。 天候により、中止する場合の対応やPTAとしての積極的な活動に改善の余地がある。	構造補強した校舎および実習棟の建設で、ハード面は地域に貢献できる。 地震対策や風水害対策を行う必要がある。	防災マニュアルの精選ができた。今後は地域との連携を再検討する必要がある。 DIGにより防災意識を高めることができたが、対象地域が狭かった。 生徒と保護者が共同で実施できた。今後は活動内容を検討する必要がある。	開成町の防災担当者との連携を図る。 DIGの対象地域を検討し、実施する。 美化活動の内容を幅広く検討する。